

鬼舐頭

〔倭名類聚抄<sup>三</sup>〕鬼舐頭 病源論云、鬼舐頭師說爲天狗下食所舐是人頭或如錢大、或如指大、髮不生也、

〔箋注倭名類聚抄<sup>二</sup>〕曲直瀬本無注云字、山田本、昌平本無是字、按下食日、見口遊陰陽門、拾芥抄諸事吉凶部、曆林問答見歲下食、有下食時、引尙書曆曰、下食時者避其時、忌其日、沐髮種菓木、忌其時、江次第抄云、下食者鬼神之名、此日沐浴則鬼舐頭而髮落是也、但此注爲天狗下倉所舐、謂下食日時沐浴、則天狗下來食舐之、令髮落也、口遊、拾芥抄、簾中抄、並載下食日沐浴誦文、誦之以禳天狗下食也、江次第抄以下食爲鬼神名者似誤、今俗說蚰蜒舐頭則髮落、蓋蚰蜒訓下自下自、與下食時聲近而誤也、略原書作人有風邪在於頭、有偏虛處、則髮禿落、肌肉枯死、或如錢大、或如指大、髮不生、亦不痒、故謂之鬼舐頭、此所引節文、

〔江次第抄<sup>一</sup>〕四方拜

歲下食 其日注曆下食者鬼神之名、此日沐浴則鬼舐頭而髮落、故憚之、

〔有林福田方<sup>十</sup>〕頭面七竅門

鬼舐頭 クシキチラル ケジキノチブリタル、此是レ風邪ノ作ス所也、赤博ヤハラ、右末トシテヒル和テ付之、

〔俗說正誤夜光珠<sup>中</sup>〕髮のまるく禿るを蚰蜒に舐られたると云説

故なくして、頭のまるく禿るを、俗に蚰蜒の舐りたる痕といふは誤れり、これ蟲毒にあらず、皮膚に風熱の聚りたる病にて、其名を鬼舐頭禿といふ、千金方に、鬼舐頭を治する方、猫兒屎を灰に焼て、臘猪脂に和て、傳くとあり、

腎囊風

〔瘍科秘録<sup>五</sup>〕腎囊風

腎囊風、和名ヲインキンタムシト云テ、是モ頑癬ノ一種ナリ、至テ治シ難キモノナリ、初メハ陰囊ニ發スレドモ、漸蔓延シテ陰莖及兩股小腹ヲモ侵蝕スルコトアリ、團暈ヲ成シテ微モ頑癬ニ異